

「関西圏の活性化と西日本広域連携が拓く未来社会」シンポジウム

(一社)近畿建設協会

この度、「関西のインフラ強化を進める会」(近畿建設協会・建設コンサルタンツ協会近畿支部)の主催、国土交通省近畿地方整備局の後援によりシンポジウムを開催しましたのでご報告いたします。

本シンポジウムでは、首都圏に次ぐ経済圏域である関西圏の一層の活性化の実現に向けて、西日本広域連携の強化と新しい生活様式(ウイズ・コロナやSociety5.0など)を踏まえたインフラの整備・活用のあり方について、有識者と関係者による基調講演、意見交換を行い、来るべき未来社会の方向性を考えました。

- ① 日時：2023年6月26日(月) 13:30～16:30
- ② 会場：エル・シアター (エル・おおさか)
- ③ 主催：関西のインフラ強化を進める会
(近畿建設協会・建設コンサルタンツ協会近畿支部)
- ④ 参加：約400名

◆ 基調講演 渡辺 学 近畿地方整備局長

新たな国土形成計画について、デジタルを徹底的に活用した「シームレスな拠点連結型国土」づくりの構想等を解説。

◆ 基調講演 橋爪 紳也 氏

2025年大阪・関西万博のレガシーを活用した西日本連携の可能性について説明。



渡辺 学 氏



橋爪 紳也 氏

◆ パネルディスカッション

「関西圏と西日本の広域連携強化」をテーマに、広域観光、GXの実現、広域防災体制等の観点から意見交換を行った。



村尾 和俊 氏



真鍋 精志 氏



藤本 貴也 氏



池田 豊人 氏



佐藤 樹一郎 氏



小林 潔司 委員長

◆**村尾氏** 強い企業と産業を創出、対流を促す**広域的な交通インフラの整備**を。

◆**真鍋氏**。万博は「**広域連携**」の**拡大の契機**。各地域独自の強み作りが急務。

◆**藤本氏** 「**国土の均衡ある発展**」に立ち返り、西日本4ブロック共同で東京一極集中の是正に向けた取り組みを。

◆**池田氏** **南海経済軸の強化**で四国の半島性を解消し、西日本広域連携で瀬戸内の産業振興を。

◆**佐藤氏** **太平洋新国土軸**として大回廊を作り、日本全体の経済発展と強靱な国土づくりの実現へ。

◆**渡辺氏** 万博を観光の起爆剤に。**関西から観光立国の復活**を目指す。

◆**小林委員長** シームレスな拠点連結型国土の形成には瀬戸内海を活用した西日本連携が不可欠。国土強靱化を進める上でも**インフラ投資への重要性**が高まる。

プログラム

13:30 開会挨拶 一般社団法人 近畿建設協会 理事長 谷本 光司

13:40 **基調講演**
「**西日本広域連携と次世代の国土づくり**」
国土交通省 技監 吉岡 幹夫 氏

「**万博のレガシーと西日本広域連携**」
大阪公立大学研究推進機構 特別教授 橋爪 紳也 氏

14:40 休憩

14:50 **パネルディスカッション**
テーマ：**西日本広域連携が拓く未来社会**

パネリスト 【オンライン】香川県知事 池田 豊人 氏
※五十音順

【オンライン】大分県知事 佐藤 樹一郎 氏

JAPIC 国土未来プロジェクト研究会 委員長 藤本 貴也 氏

一般社団法人 せとうち観光推進機構 会長 真鍋 精志 氏

公益社団法人 関西経済連合会 副会長 村尾 和俊 氏

国土交通省 近畿地方整備局長 渡辺 学 氏

コーディネーター 京都大学経営管理大学院 特任教授 小林 潔司 氏

万博で西日本広域連携

「関西圏活性化シンポ」に400人

近畿建設協会などで構成する「関西のインフラ強化を進める会」が26日、大阪府中央区の大阪府立労働センター（エル・おおさか）で、シンポジウム「関西圏の活性化と西日本広域連携が拓く未来社会」（産経新聞社ほか後援）を開催し



講演やパネルディスカッションが行われ、約400人が聞き入った。講演では、大阪公立大研究推進機構の橋爪紳也特別教授が、2025年大阪・関西万博のレガシーを活用した西日本広域連携について説明し写真。近畿地方整備局の渡辺学局長が、新たな国土形成計画について解説した。

パネルディスカッションでは、同会委員長で京都大経営管理大学院の小林潔司特任教授がコーディネーターを務め、日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）国土・未来プロジェクト研究会の藤本貴也委員長、せとうち観光推進機構の真鍋精志会長、関西経済連合会

の村尾和俊副会長、近畿地方整備局の渡辺局長が登場。香川県の池田豊人知事と大分県の佐藤樹一郎知事もオンラインで参加し、関西圏と西日本の広域連携の強化について意見を交換した。

産経新聞（2023年6月27日）

【開催予告】 第13回シンポジウム
日時：2023年11月2日(木) 12:45～15:15
会場：インテックス大阪 6号館

西日本連携の重要性議論

インフラ強化を進める会がシンポ

関西活性化、日本の発展へ



谷本理事長

を進める会」（委員長・小林潔司京都大学経営管理大学院特任教授）は26日、大阪府中央区のエル・おおさかでシンポジウム「関西圏の活性化と西日本広域連携が拓く未来社会」を開いた。約400人が参加し、西日本の広域連携や観光の在り方などについて議論した。シンポジウムは、関西圏・西日本広域連携の強化と新しい生活様式（ウイズコロナやSociety 5.0など）を踏まえたインフラ整備・活用などについて、未来社会の方向性を指し示すために企画した。

冒頭、谷本光司近畿建設協会理事長が「今年には国土形成計画の見直しで、各地



パネルディスカッション

方計画でやるべきインフラを書き込む重要な年だ。シンポジウムではそれぞれの分野から意見をいただき、素晴らしい日本を描ききつかけになることを願っている」とあいさつ。吉岡幹夫国土交通省技監の代理として、渡辺学近畿地方整備局長が「西日本広域連携と次世代の国土づくり」をテーマに講演した。

小林委員長をコーディネーターに、村尾和俊関西経済連合会副会長、真鍋精志せとうち観光推進機構会長、藤本貴也日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）国土・未来プロジェクト研究会委員長、渡辺局長のほか、池田豊人香川県知事、佐藤樹一郎大分県知事がオンライン参加してパネルディスカッションを展開した。池田知事は「南海経済軸と日本海経済軸で西日本全体のエリアの人とモノの動きが活発になることが重要だ。半島を生かすためにも軸を強めていかねばならない」と指摘。佐藤知事は「物流面、防災面から豊予海峡は道路でつながるのが大切だ。国内で残されたミッシングリンクであり、日本の将来の発展のためにも重要」と強調した。藤本氏は「東京に「極集中しすぎると、災害リスクが高まり、地方も弱体化し、改めて国土の均衡ある発展が求められる。強い地方を形成するためには西日本連携が重要で、それを支える広域交通網の整備が求められる」と語った。渡辺局長はこれからの関西のプロジェクトを時間軸で紹介し、「万博は今後の関西のスタートにしなければならぬ。関西の強みであるライフサイエンス分野や蓄電池を生かすためにも、われわれは他地域との連携を強化するインフラ整備を頑張っていきたい」と述べた。最後に小林委員長は「瀬戸内は観光、産業集積も高い地域だ。カーボンニュートラルを進める巨大な投資の土壌がある。次の展開に進むためにも、国土強靱化を進める上でもインフラ整備が重要だ。これまでの発想の転換も含めて進める必要がある」と締めくくった。

国や自治体、経済界、識者ら関西の産学官で構成する「関西のインフラ強化